

教育課程授業数一覧表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳	学活	総合的な学習の時間	合計
1年	140 4	105 3	140 4	105 3	45 1.3	45 1.3	105 3	70 2	140 4	35 1	35 1	50 1.4	1015 29
2年	140 4	105 3	105 3	140 4	35 1	35 1	105 3	70 2	140 4	35 1	35 1	70 2	1015 29
3年	105 3	140 4	140 4	140 4	35 1	35 1	105 3	35 1	140 4	35 1	35 1	70 2	1015 29

※上段：年間時数，下段：週時数

日課表

朝読・朝活	8：30～ 8：40
1限目	8：50～ 9：40
2限目	9：50～10：40
3限目	10：50～11：40
4限目	11：50～12：40
給食	12：40～13：10
昼休み	13：10～13：30
5限目	13：35～14：25
6限目	14：35～15：25
掃除	15：30～15：40
終学活	15：45～15：50
部活動	15：50～16：35
下校完了	16：50

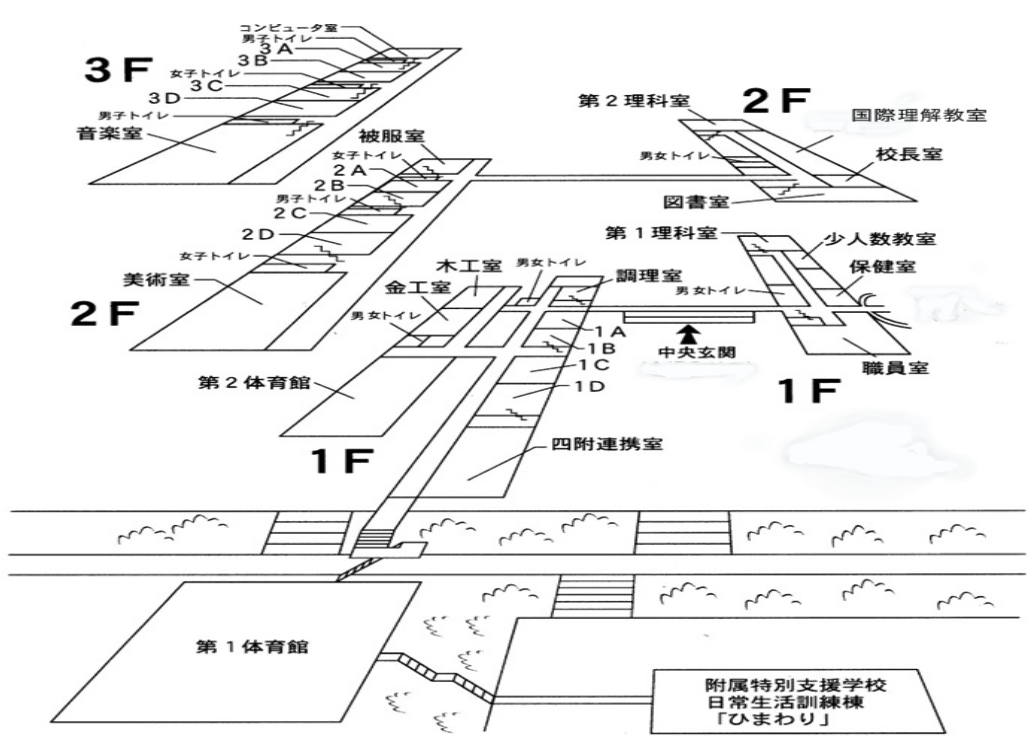
使用教科書

教科名	教科書会社名
国語	教育出版
国語（書写）	光村図書
社会（地理・地図）	帝国書院
社会（歴史・公民）	日本文教出版
数学	啓林館
理科	啓林館
音楽	教育出版
美術	光村図書
保健体育	学研
技術	開隆堂
家庭	開隆堂
英語	光村図書
道徳	東京書籍

教職員及び生徒数（令和6年4月1日現在）

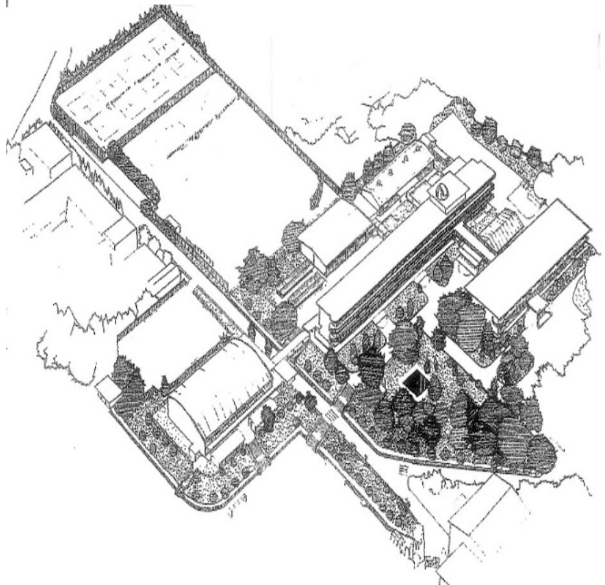
校長 山口 勉 教頭 津田 智康					
主幹教諭 竹内慎一郎(体) 指導教諭 中村幸友子(英) 養護 秋元 愛					
学年	人数	組	人数	担任	副担任
1 年	144	A 組	36	西田 友亮(社)	(主)若林 努(理) 中村幸友子(英) 西本 彩(音)
		B 組	36	信田 雅裕(国)	
		C 組	36	市川 雅章(美)	
		D 組	36	加藤 隆彦(数)	
2 年	142	A 組	36	岡南 遼(体)	(主)山城 卓(技) 小泉 晶子(国) 須藤 淳(数)
		B 組	35	濱口 美佐(英)	
		C 組	36	加藤 幸純(社)	
		D 組	35	久保 昂世(理)	
3 年	143	A 組	36	鈴木 将弘(体)	(主)林 歌織(家) 楠本 涼子(国) 山田 昌孝(数) Danford Gordon Ross (英)
		B 組	35	萩森 喬至(社)	
		C 組	36	庄山 大樹(英)	
		D 組	36	嵯峨 恭代(理)	
コーディネーター 島田 敏行 (理)					
ALT Weiss David スクールカウンセラー 山北 深香					

校舎鳥瞰図



アクセス

近鉄名古屋線
津駅より 徒歩20分
津新町駅より徒歩20分
三交バス
附属学校前停留所より
徒歩3分



三重大大学教育学部附属中学校校歌

三、
人材雲と湧き出する
たがいにくみしこの泉
星はめぐれどこの窓の
教えをとくに身につけて
伸びゆく友にひかりあれ
ああ附中はえある三年
とわにかがやくわれらの力

二、
学びの庭を彩りて
夢おらかな志登茂川
朝な夕な風霜に
眉うるわしく集う子が
希望をたえいそしまん
ああ附中はえある三年
いよかがやくわれらの命

一、
わか草 萌えて 見はるかす
津の海 碧く 澄むところ
仰ぐ いらかの 棟ちかく
み空に 映ゆる 経ヶ峯
高きを のぞみ 磨かなん
ああ附中はえある三年
日々に かがやく われらの知性

附属中学校校歌
鈴木 武藤 和夫 作詩
寛 作曲



学校要覧
The School Catalog 2024



国立大学法人
三重大大学教育学部附属中学校
Junior High School Attached to Faculty of Education, Mie University

〒514-0062
三重県津市観音寺町471
☎ 059-226-5281
📠 059-226-5282
🌐 <http://www.fuzoku.edu.mie-u.ac.jp/chu/>
✉ webmaster@fuzoku.edu.mie-u.ac.jp

三重大大学の基本的な目標

三重大大学の力を世界へ

- 大学と地域の調和
- 大学と自然の調和
- 研究と教育の調和

基本理念 三重から世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学
地域に根ざし、世界に誇れる教育・研究に取り組み、人と自然の調和・共生の中で、社会との共創に向けて切磋琢磨する。

目標 教育 幅広い教養を身につけるとともに高度な専門知識や技術を有し、国際的な視野を持ち、社会のイノベーションを推進できる人材を育成します。

研究 世界に貢献する特色ある先端研究、地域に根ざしたオンリーワン研究、社会課題の解決につながる応用研究、さらに未来を拓く多様な基礎研究に取り組み、国際性と高い倫理性を備えた研究活動を行います。

社会貢献 豊かで健康な持続可能未来社会の実現を目指し、産学官民の連携を深め、地域との協働・共創の拠点として諸課題の解決に取り組み、それら成果を社会実装することで、社会の発展と活性化に貢献します。

令和6年度 附属中学校学校経営方針・学校教育ビジョン

三重大大学が大切に
する4つの力

- 生きる力
- 感じる力
- 考える力
- コミュニケーション力

附属学校園一貫教育の目指すもの

教育目標 「主体的、創造的に生き抜く力（生きる力）をもった心豊かな子どもを育てる」

めざす子ども像 ・積極的に学び続け、社会の中で知識を活用し、自らの考えを豊かに表現できる子ども
・仲間を大切にし、互いに高め合うことができる子ども
・健康で活力ある学校生活を過ごすことができる子ども

本校の基本理念



「つながりあう個」
一人一人はそれぞれ異なった存在であり、誰もが唯一かけがえのない存在として徹底的に尊重されなければならない。そして、それぞれの自立を図り、人間関係を紡いでいくことが重要である。

附属中学校の教育目標

「豊かな創造性とたくましい実践力をもち、生活をきりひらく生徒の育成」

めざす学校像

- ・生徒自らの学びを表現し合う学校
- ・生徒一人ひとりが大切にされ、
心通うかかわりのある学校
- ・内にも外にも開かれ、信頼される学校

めざす生徒像

- ・積極的に学び続け、豊かに表現しようとする生徒
- ・自他の人権を大切に、仲間とともに高め合う生徒
- ・健康・安全に留意し、心身ともに健やかに成長する生徒

めざす教師像（3本柱）

- ・自らを磨き、実践し、行動で示す教師
- ・愛情を持ち、生徒と向き合い、
生徒の主体性を引き出す教師
- ・同僚性をもち、ともに高めあう教師

附属中学校 第32次 研究テーマ

「探究活動を中心としたカリキュラムを通して
生活や社会を切りひらこうとする生徒の育成」

～生徒一人一人のウェルビーイングを目指して～

学校教育目標の姿に近づけた探究活動

- ・探究活動を通して、自身のウェルビーイングを実現するための力をつける。
- ・各教科での学びを探究活動（総合的な学習の時間）に生かし、探究活動で得られた力を、各教科や生活の中に生かす。

探究活動での目標

豊かな創造性

- ・自身のウェルビーイングが何なのかを明確にできる。
- ・興味・関心から、問を立てることができる。
- ・学んだ知識・技能を使って、課題を解決していくアイデアや糸口を考えることができる。
- ・確かな情報を集め、それらを活用し、自身の考えを構築できる。

たくましい実践力

- ・自己を分析し、何が必要なのか、どうすればいいかの方法を、見出すことができる。
- ・できる、できないにかかわらず、課題解決や自己実現に向けて、前向きに取り組むことができる。
- ・課題の解決や、自分や他の人、社会のウェルビーイングの実現に向けて、諦めずに努力し続けることができる。

生活をきりひらく

- ・ウェルビーイングの実現に向けて、前向きに取り組むことができる。
- ・物事を柔軟に捉えることができる。
- ・何か問題が生じたときに、課題解決に向けて、自ら行動を起こすことができる。
- ・自ら問題を発見し、その解決に向けて行動することができる。
- ・積極的に社会の中で活躍しようとしたり、自分の良さを生かしたりしようとしている。

具体的な行動計画

〈生徒一人ひとりの学びを大切にした授業づくり〉

- 1 授業公開を積極的に進める。（1人年3回以上）
- 2 教科部会を中心に実践例や研究授業の振り返りを行い、今次研究を推進する。また、公開研究会や他校との連携などを通して本校の取り組みを積極的に発信する。
- 3 一人一台タブレットの効果的な活用を研究し、ICT教育を積極的に推進する。
- 4 学部との連携を積極的に進める。（連携授業、教育実習、研究協力等）
- 5 専門性や力量を高めるための研修会やベンチマーキングに積極的に参加するとともに、その還流に努め、OJTの活性化を図る。（他附属等各種研究会への参加、学部との連携）
- 6 シラバスの活用、ノート指導等により学習習慣の定着や自律して学ぶ態度を養う。

〈豊かな関わりを育み、豊かな心を育てる教育活動の推進〉

- 1 「自ら動く!附中生」を活動方針として掲げ、生徒会活動を支援し自治の力を養い、他との交流に積極的に参加する。（ユネスコ、リーダー交流、他校との交流など）
- 2 挨拶の励行と、清掃、朝読、部活動のとりかかりに重点を置き、教師集団が共通理解のもと率先して取り組む。
- 3 生徒会活動をはじめ、生徒の自主的な活動を推進し、生徒の活動支援を通して、教師と生徒の信頼関係をより深める。
- 4 人権教育を基盤とした集団づくりの力量を高めるとともに、道徳の時間の指導の在り方について研究を深める。（橋北中校区人権学習実践交流会への参加、道徳の時間の確保と指導の充実）
- 5 防災教育の推進や危機管理体制、環境の整備に努める。

〈働き方改革の推進、学校経営の改革〉

- 1 働き方改革を推進し、総勤務時間の縮減とともに、職場の環境整備に努める。（①定時退校日の設定、②部活動休養日の遵守、③総勤務時間の縮減、④休暇取得日数、⑤放課後会議時間短縮、⑥意識改革）
- 2 めざす学校像の実現に向けて、教職間の対話を積極的にもち、自校のミッションを共有すると共に、学年、学級での具体化につなげる。
- 3 一人一台パソコンを活用し、ガルーンや共有ファイル等による情報共有（ペーパーレス化）、反省・引き継ぎ等の効率化を進める。
- 4 各分掌からの提案を運営委員会に提出し、事前の検討を加えることや、定型の業務のルーティン化、資料の事前配付などにより会議の効率化を図る。また、それぞれの取組におけるPDCAサイクルの積極的な運用に取り組む。
- 5 部活動に関する国や県の動向を注視しつつ、当面は部活動指導員の積極的な活用を進め、顧問の負担軽減を図る。

〈学部や保護者と進める開かれた学校づくり〉

- 1 学校自己評価とともに学校関係者評価委員による学校評価を実施する。
- 2 メール配信の継続や学校だよりの発行等、積極的な情報発信に努める。
- 3 ホームページの更新を継続的にを行い、掲載内容の充実に努める。
- 4 育友会活動や学生ボランティアの活用等、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について育友会役員とともに推進を図る。
- 5 四附属一貫教育のカリキュラムの実践検証し改善につなげる。

